

○ 本校の概要

開校146年目を迎えるという大田区でも屈指の伝統校である。コロナ禍以前はPTA校外清掃活動、大森銀座商店街での吹奏楽演奏、盆踊り大会での花笠踊り披露、近隣商店街夏祭りでの児童絵画の提供など地域での行事や活動が定着しており、大森北の町の学校として多くの人が応援をしてくれていた。しかし、コロナ禍にあっても何かできることをしようと今も保護者・地域は学校に協力的で温かく見守ってくれている。特別支援学級(知的固定3きこえ1ことば2学級)と通常学級で4つの教育課程をもつ学校である。特別支援教室には14名が通っている。児童数527名、教職員等指導関係スタッフは約60名ほどの区内では中規模より少し大きな学校と言える。2020年から校舎等全面改築が始まっており、現在は教育環境に制限が多い。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		これまでの取り組み 今後の改善策
							評価	人数	
プラン1 生1 生きる 未来 社会の 育成を 創造的 に	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもへの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の子どもとのコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	タブレット端末等ICT機器を使った授業に対する子どもの満足度が	4:90%以上 ○ 3:85%~90% 2:80~85% 1:85%以下	A	5	・オンラインで様々なことが進められている便利さの反面、子供たちが直接的な対話やかかわりを通して学ぶコミュニケーション力を育むことも大切であり、今後も気になるところです。これからも直接体験も大事にしてほしい。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設備教室を使用する全正規教員が週1回以上2:60%以上の正規教員が週1回以上活用している。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3					
		タブレット端末等ICT機器を活用し、自ら表現、発信する能力の向上をめざす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4					
プラン2 学力の 向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	3~6年生の算数・理科の「全観点」において2学期末時点で到達基準(70点)に達している子どもの割合が、	4:85%以上 ○ 3:80~85% 2:75~80% 1:75%未満	A	5	・算数少数人数については、時々教員配置の問題で、実施できない時期があった。教員配置や業務分担、教科担任制等指導担当の工夫をしていく必要がある。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:対象となる児童・生徒への出席を全教員が聞きかた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3					
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4					
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4					
プラン3 豊かな 心の 育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	学校公開などの保護者・地域対象アンケート項目1「子ども一人ひとりの学習や活動は充実している」と、項目3「教職員は一人ひとりに応じた指導をすすめている」の数値をならして肯定的な評価をしている割合が	4:90%以上 ○ 3:85~90% 2:80~85% 1:80%未満	A	5	・9割以上の保護者は学級・学年運営に理解と安心感をもっていたが、一部の学級で指導状況に不安を感じる状況があった。学年・学級担当を固定化するのではなく、複数で担当し、児童をきめ細かに把握し、個に応じた適切な指導を複数体制で行っていくことが課題である。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
プラン4 増進 体力の 向上と 健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	国際的なスポーツ大会について観戦したり学習したりすることでスポーツへの関心・意欲が高まった児童が	4:85%以上 ○ 3:80~85% 2:75~80% 1:75%未満	A	5	・オリンピック・パラリンピック観戦が中止にはなったが、インターネットでの調べ学習やテレビ観戦等を通じて、新しいスポーツや障害者スポーツに関心をもたせることができた。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいつつ「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					
		平成27~29年度までの体育校内研究の成果を生かし、運動に親しむ子どもを育て、体力向上を目指す。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					
プラン5 魅力 ある 教育 環境 づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりたい。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	学校公開などの保護者・地域対象アンケート項目2「教職員は子どもたちにわかりやすい指導を心がけているので肯定的な評価をしている割合が	4:95%以上 ○ 3:90~95% 2:85~90% 1:5%未満	A	5	・ICT機器を活用する授業を参観した保護者からは一定の評価をいただいたが、使い方や使う時間、情報モラルについて等の課題の指摘もあったため、より学びのための活用スキルへと向上できるようにすることが課題である。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					
プラン6 なっ て学 校と もに 家 庭 も 地 域 が 一 体 と	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。⇒毎日更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	学校公開などの保護者・地域対象アンケート項目4「教職員は保護者との連携を進めている」と項目5「学校はすすんで情報を発信している」の数値をならして肯定的な評価をしている割合が	4:94%以上 ○ 3:90~94% 2:85~90% 1:85%未満	A	5	・インターネットを活用し、学校情報の発信を毎日行ったり、デジタルでの文書発信へと改善したりしたことにより、学校での指導状況を知っていただくことができた。学校で直接的に子供の様子をもっと見ていただけるようになることは今後も社会状況にもよるが、期待したい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:「おおむね情報」を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4					
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					
		新たな施設が複合化されることを見通し、新たな地域拠点としての学校の在り方を関係機関と連携しながら継続して検討していく。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。